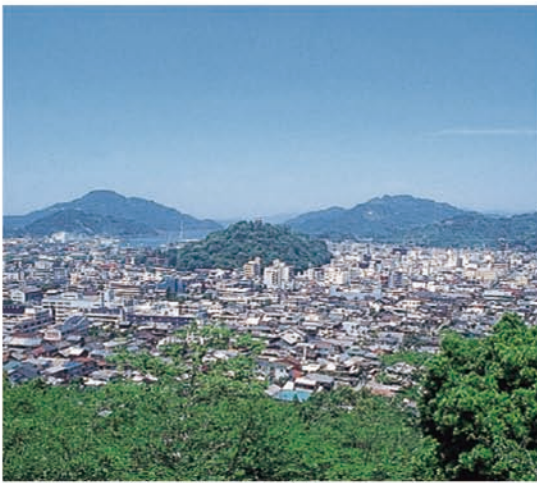


司馬遼太郎が描いた愛媛の風土

『坂の上の雲』『花神』『ひとびとの愛音』といった代表作のほか、『街道をゆく 南伊予・西土佐の道』など、愛媛を舞台にした数多くの作品を著した司馬遼太郎氏。その愛媛での足跡を辿ると、司馬氏の心をひきつけてやまなかった愛媛の風景が浮かび上がります。『街道をゆく』シリーズの中でも一際人気が高い『南伊予・西土佐の道』の「宇和島の風景」には、司馬氏が愛した宇和島の風景が描かれています。



▲司馬遼太郎が桃源郷のように讃えた宇和島城下

「坊っちゃん」

夏目漱石 著



▲坊っちゃん列車

東京の大学を卒業し、松山の中学校へ教師として赴任した「坊っちゃん」が、彼を待ち受けていた赤シャツ達先輩教師や生徒達を相手に、正義感に駆られ活躍する様を描く。作者の松山での教師体験をもとにした物語。道後温泉等の観光地が登場する。(舞台:松山市)

「がんばっていきまっしょい」

敷村良子(松山市出身) 著



▲松山市三津の渡し

20数年前の四国・愛媛松山の高校を舞台に、ボートに青春をかけた5人の女子高校生たちの姿を瑞々しく描いた物語。「がんばっていきまっしょい」は、作者の母校である松山東高等学校で昔から使われている「気合入れ」の掛け声。すべて愛媛県内のロケで映画化された。(舞台:松山市)

「万延元年のフットボール」

大江健三郎
(内子町出身 ノーベル文学賞作家) 著



▲内子町大瀬の集落

障害のある子どもの養育を放棄した夫婦と、学生運動に挫折し米国への遊学から帰国した弟の故郷である四国の村での事件が物語の中心。苦渋に満ちた登場人物たちが、フットボールチームを組織し、奇妙な政治運動を起すが、やがて万延元年の一揆のような暴動に発展する。(舞台:内子町)

愛媛が舞台になった主な文学作品

「永遠の仔」

天童荒太(松山市出身 直木賞作家) 著

家族からの悲惨な仕打ちに心を碎かれた少年少女3人の心の暗闇と、それを埋めるために犯した事件、そして17年の時を経ても癒えぬ心の傷に翻弄されるさまを描く。児童養護施設で育った3人の主人公が、弁護士、警察官、看護師となって再会し、過去のトラウマに悩まされながらも助け合いながら生きていく。(舞台:石鎚山)



▲西日本最高峰の石鎚山

「ふおん・しいほるとの娘」

吉村昭 著

幕末の日本に最新の西洋医学を伝えた、シーボルトの娘として生まれたお稲の波乱の生涯を描く歴史大作。女性が医者になることなど想像すらできなかった時代に、父の門下生を各地に訪ね産科医としての実力を身につけていく。ゆかりの地である西予市宇和町の光景がうかがえる。(舞台:西予市)



▲宇和の町並み

「てんやわんや」

獅子文六 著

太平洋戦争の終戦直後、獅子文六が妻の実家がある宇和島市津島町に疎開していた時の様子を題材としている。「闘牛」、「牛鬼」、「岩松川の大うなぎ」、「南海大地震」などにより、南予地方の人情、文化、方言などが興味深く紹介されている。(舞台:宇和島市津島町)



▲岩松川沿いの町並み

いよいよ放送スタート

スペシャルドラマ 「坂の上の雲」

NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」が、平成21年11月より3年間に渡って放送されます。3人の主人公には、本木雅弘、阿部 寛、香川照之と日本を代表する俳優を起用。また主人公を取り巻く人物にも菅野美穂ら豪華な顔ぶれが揃います。撮影は、松山をはじめ世界各国で実施。物語の面白さはもちろん、最新技術を駆使した迫力ある映像にも注目です。

放送予定(全13回)

- 第一部(第1~5回)
2009年11月29日・12月6日・13日・20日・27日
NHK総合 午後8:00~9:30
- 第二部(第6~9回)
2010年秋放送予定
- 第三部(第10~13回)
2011年秋放送予定

◀左から菅野美穂(正岡律)、阿部 寛(秋山好古)、本木雅弘(秋山真之)、香川照之(正岡子規)